源氏系圖

秋山文庫

大上天皇

あまひの巻より位をゆづり給ひて末の巻より
くられ給ひてそちつづぎのれ門ちりつきはよ桐帝ともあり

前坊　故院のれそちうちと葵よりそしうと

秋好中宮　母六条れ息所

あまひよ秋家よりち給をたげちてよ都へ海くを給
澪合よ関よ寄りめて梅つぼとりき乙女よ中宮
よりちれ法よ皇后宮よあぐくを給ひきはよ秋好ともあり

桃園式部宮

檀紫院　さくをよりものいつきよみ給うす雲よ父のれ
服よりてありさせ給桃園宮よ女御宮とあひて

秋山文庫

まゝ母のふ　ワキ付より様とあり

三宮　院のひらけれ腹や　摂政の北方よりもうまれ　後ごう殿乃

巻より　ワキ付より大家とあり

女五宮　桃園家より　位のふより　紅ぐれより

朱雀院　ワキ付朱

母ハ弘徽殿大后

相つぐの巻より　藤家　藤家あり　うまれ　位より　きさき　おげくより

くゝねと　藤家より　譲　うまれ上より　ぐゝ　おろして　西山のれ

寺より　すまを　同巻六条院れ　賀　あり　一院と　ゆれ門也

今上　母　義香殿女れ

明石の巻より　二歳　とう也　おげくより　藤家　梅ぐえて

れ　元服　うまれ下より　くゝねより　ゆ　ワキ付金

女一の宮　うまれの上より也

落葉宮　母ハ一条れ　母

うまれの下より　柏木大納言の北方よりもうまれ　後て

夕ぎりの大将　くゝ　ひとり　あり

二ノ内親王　母ハ先帝源氏家

うまれ上より　六条院より　うまれて　内下より　二ノ　なり　柏木巻より

うまれ　ワキ付より女三

女四の宮　うまれ上より也

春宮　母ハ　ゆ　の中宮

うまれ上より　むまれ　内下より　宮　内下より　宮　ゆ　あり

式部つぼね

女房装束抄中宮と云て六条院の寝殿を
やすらゐ所とし給ふ二の宮と云ひ給ふ式部

白菊つぼね　女房上

白菊の装束ごんぢくして奉る
うんぢ〻むらさきのうへやしちひ給ひ三の宮や白
若菜　女房宿の中の

やどり木　装束むまれ給

常陸宮　女房更衣

白菊の装束ゆゑ〻ごとのちゆゑのくらあるべき
給ひ日ごろ奉る家ひとされし人四の宮と云

中務宮　女房

月の日ゆゑ日々雪の大将まゐ給ひて車よりのを給
しめの宮おづまやよ大宮のれちやれ時まいり給みや
ぢりに上野のみこと殿上よりまゐ給し人

一条宮　女房

これもむらさきの上やしちひめて六条院の南の町よ
すゑを給ふ大将心ゆけてまゐし人

女二宮　女房藤つぼの女れ

やどり木よ内のれさうして奉る大将をむる装束
女房つぼの更衣

六条院

七歳にて源の姓を給ひて十二にて元服ぱすぎよ中将

紅葉賀より正三位中将知元同巻より宰相中将知元巻より大将次ぎの巻より浦々より明石の巻より新大納言より澪標より蓬生より関屋より絵合より松風より薄雲より藤裏葉より若菜上より柏木より横笛より鈴虫より夕霧より御法より幻

大上天皇の号をえめ

夕霧左大臣　母葵上

これより内裏の昇殿し女より元服してあさぼらけより紫雲たなびくより内裏の御物忌より除目より行幸より紫宸殿行幸より賀茂の祭より斎宮より斎院より行幸より

てんらのぼり月巻の秋除目より

のぼりより玉鬘より中将より

うぐひす中納言より

左大将より

母紫宸殿女三の宮

薫右大将

柏木の巻より生れ給ひ元服して四位の侍従より

後とさらに四位その秋右近中将十四月巻より三位に

宰相より中将中納言やがて河内の二月より

一説より按大納言

明石中宮　母あかしの

こおげんの三月より明石の御子生れ給ひ松風より新

のぼりて大井より嵯峨より六条院へむかへ給ひ

のうぐひす巻より

より中宮白宮の巻より皇太后宮

右衛門督　　参三条上

まうれ下よ朱雀院れ賀のもがくれ時まうてまいり
さ女房の装ぞくうちぶえ吹とうも白家の巻よりの色弓
れ日出仕をしへ人々うれ所々の家家宿まて紅葉
うを結しに日中家のれ侍るひまてまうでうるうしあ
げまれまうえうう

中納言　　参殿内侍

六条院家のれうむうてやしうれ宿次ぐ君朱雀院
のれ賀れ出ぐぐおすぐき菊日あよ君と同ぐくまいり
のふうしつれ下ようう白家の巻よりうの日右馬
のうとおすぐく出仕をしへ

右大弁　　参三条上

まうふ家の巻よのうちれ日出仕をしへ志ねがまく
まうぐへまいううう白日れ下ようう君
いへう

侍従宰相　　参誰ともす

志ねどもに白家のえのをうでの時宿へまいる
ううしへ

源宰相中将　　参三条上

まくい義へ丗将行河よ三位中将同巻よ宰相中将
志ねどもくる權中将というえまぐろしの巻より
おすぐ行うてふうう殿上しのふといるしへぐうや

頭中将　女蔵人侍

行河は源少将といへり。やどりまゐる自家六の君ようひ
そめ給しぬ。ちゝ母ゝ御ぶの法ひ給てまゐ給て
と法ゝ〳〵一人椎本は又中将といふひ人なるべし

四位少将　女三条上

一品宮れたるやこの時横河僧都のもとへ中宮れつゝひ
き一人行川は兵衛佐さるべきに蔵人兵衛佐といふ

童　女雅ともなる

やどりまゐる今上の女二宮蔵の宮の君ゝ御ぶ山ゐき
ゝ一人ちゝ君とあるべ

春宮女れ　女三条上

中君　女おなる

二宮のゝ君ゝ

三の君　女蔵人侍

四の君　女三条上

五の君　女おなる

以上三人々ぞるとの巻ゝ

六の君　女蔵人侍

やどりまゐる自家れいゝ

蛍兵部卿宮

もとは帥宮七女ゝ第薫院の行幸れ時兵部卿とも

うち給へるうち　紅梅　女房

侍従　女房　のこさるのる

梅ぐえま六条院ちちのれつしてれ本ちつで

一人

童女

同

四人ワれてよ。朱雀院のれ賀のもぐるよ方歳楽

まいめよ

宮れ方　女房　ま紀だ一れのう人

父うち給て後。母ぐよりて。按察大納言のもとに一

すこし給。白兵アつ家ぐるずぐる給一人

四の宮　女房　第香殿女れ

中宮　もみぢのぐに日ぐいて秋風ふまひまひ一人

やうた六条院の馬場のおとぐるておよよ吾ア の後

ぐぐひをとりてこしめひ一人

八の宮　女大臣女

宇治ようぢ給ふ。橘姫のま紀よこうぐそくの

家とりてくわき付八

紫角大夫　女大臣女　あげま紀の巻ようを給わき付大

中夫　女おちず

あげま紀よ吾ア つ家まあて。早蕨ま二条院へむ人

られめ　わき付中

浮舟　女ひくちぶつまれさるる

やどりまるひくちうちのぼりて東屋よりぞ沼ようつる

ふるさとひるの小野ようわちぶ　わき付浮

式部宮

あづまやの巻ようむすめ是浮舟大将ようきさらー人

ひげくろの巻ようきゆくるうーうも浮舟大将のなぐさいへち

侍従　女ひくちのきるのる

宮志　女なちぶ

父ようきゆてのちあくれ一品のみやへまいる紹

ほかた侍ようくうは女ーー人

冷泉院

女うして雲の女院

あるひよ玄宮こおげくうよれくね見れてよおるもね

紹十のれみどりさわき付冷

一宮　女ひげくろの大臣女

むまれ紹ようー行げようも

女一宮　女孫仕大臣女

一のみやようもあね

女二宮　女一宮よおちぶ

行げよまれ紹れを一の宮れ婿や

一品宮　女朱雀院よおちぶ

女一のみやちぶ一品のうーるれ上ようも

女二の宮
前秋院

あつまひとものいたきまよおぼしたる院のれいぐまう

ておりさせたる女三の宮とありけり

先帝

式乃宮

もしめハ若つとそそしき心地して式乃宮

薄雲女院　后だちの宮の宮ちう

きりつぼ院へさつり給ふ。菊つぼとそ。紅葉賀

葵宮ハ女院をそそ。きる紀ようち給ふ。

きりおとし給ふ。おぼしめす大上天皇よりずくふ。

源氏宮

朱雀院。葵宮ハ時ちまいりて。女三の宮をう給ふ

つぐどそそしきうき給ふ。ちうれ上ようも

源中納言

ちうぐう殿。右兵衛督。梅づえ。六条院ちうしうき

給ふ。人へ。ちれ下ま中納言ごろも

若君　朱雀院ハ賀ハ。ぐくの日。皇帝まひ。人

中将

侍従

民乃大輔

三人いもうとなれ共大将の御ふる里なるれし時父のもと
うむ人まいりし人
髭黒大将家　母今の御方
大将ひらちれくいりけし人
第上　母按察大納言女
十ぐらるとの時源氏の君むかへらる花散のうしろ車
をゆるされ法ようくれの御ふ
冷泉院女れ　母髭黒の御方
とらんる入内おげらる中の君とつりられどもむ
されのうへるいもうとうこを

常陸宮

阿闍梨　私云紅葉の巻る醍醐の阿闍梨
源氏のれ八條るまいりて人こにいもうられもくして
あるとき夜かくれ人
蓬生君　蓬生の巻る源氏の君るあひ蓬生
まひくのゆんようけうひゆふ　ワき付未詳
摂政太政大臣
そうつぐるさ大臣そ源氏の君のかう冠をし人るう言
まの巻る後仕これげらる太政大臣そて摂政し給
うそ雲の白月るうを給ワき付た大臣
後仕太政大臣——母三の宮——
そうつぐる花人サ将そくにスト中将紅葉賀る四位

位下次戸に宰相中将とおづくしに権中納言と寸雲
に権大納言にて右近大将を兼ぞさきに内大臣藪乃
うしろに太政大臣にられ下に致仕の表をたてまつりぬ
うちのへるうしにゆふぎりの巻にこれ わき付ね

左中弁

おもうそれに小山へ源氏のれむくにさいらし人並の
えんに中将弁ちうじまいりあはそでいてるも此人なり
べし夕ぎりの巻の蔵人弁とこれ人なりや

藤大納言
春宮大夫

此二人ハ源氏三条のこやへまいり給しに致仕のおと
どのひきつれてまいり給し人やかゝげられ三位ごあるも
とうぞんに左衛門督権中納言とさゝめ家をこの人ぐ乃
定にやおもはべり後見せられし左衛門督なるべし

葵上　母三の宮

あふひの巻に夕ぎりの君をうみをきてうせ給

柏木権大納言　母二条太政大臣女四の君

此女に左近少将にてふに右近中将より宰相に次中将にる
上に宰相右衛門督同下に権中納言柏木巻に寸の得
それ権大納言になりてほどなくうせたまふ

紅梅右大臣　母同上

はじめはわらはにて韻ふたぎの日あそびこう

ひし人なおぼろしに元服。御音に弁少将。ちかれ上に次弁。
なり下にて左大弁。柏木に大納言などありし時。一条の家
のれ事にとれし人ずむしに冷泉院へまいりしもこの
人なるべし。紅梅に按察大納言とあり。竹川に夜大納言。右
大将なりしが太大臣に成給ひといへり。文雅が本に白文の御
まりでのれむ人にまいりし夜大納言もこの人成べし。やがて
まあつまやにいりて按察大納言といへる不審

大夫
紅梅にいはく世の家いまうどの君の思給ひし人

麗景殿女御　母故北方
紅梅に兵部卿宮へまいり給

中の君　母おなじ

左衛門督
床夜に夜仕従といへるは此人なりや

藤宰相
まれ下にむかしのまつりの人ささし人此二人も夕霧のお
とどの六君に思ひて家かよひそめ給ひし第三夜さぶらひし
人や鈴虫に六条院にまゐり給ひて冷泉院に参りしも此人なりや

頭中将

蔵人少将
此二人幻の巻に夕霧の君たちハ殿上しありくる時おひ
ぐしありし人ども夕霧の君の子と文夕霧の大将一

条家ようひ給とうて、ばけ侍をつひうて、ちくたらぐ、
哀とこひうゝめ、とうくこの給さいとをとゝめよ納言兵
衛の佐、給ふ太まこ給ひし、ひれまうれ可、無為給たま
こつくるとこれ人ぐるるべー

八郎君

まれぐゝる、踏哥の時ゝふうてあちー人数のうぶ
の行者る、紫王恩まひしーもこれ来ちるべー

玉鬘尚侍　　女タ〻の人

四のゝうタ〻の人のめれどよりて、ゝたうへぐるゝ、年
て、むりぐゝの巻る系人のぼ分、数ぐゝ侍る、内侍、樣相る、
ひげぐゝのかのゝるゝ、ちゝめ

弘徽殿女れ　　女、同、柏木

こゝわげゝる、十二ゝて内へまいりゝる

夕霧大臣宣　　女、御家大納言の今の少方

雲井のうすゝちずゝ、ひし人　ワキ付書

近江君　　女、祖とゝもとゝれて出ー人

●二条大政大臣　　ワキ付左右

朱雀院れ母方の祖父ぐめ、太大臣、明石る大政大臣そうをの人、通

藤大納言

頭弁　　ゝゝ来る白虹日、つゝわけゝゝ通ゝ人

麗景殿女れ　　朱雀院れゝるれ母のれ、ゝゝに、通

四位少将　　ちゝめとぐ、殿のゝん、ゝ名ゝ、ちゝ源氏のれむ人る

まいりて、ゑしらるべてのゑちごどもつうへし人

左中弁　此二人は源氏物語の引歌なり

小のぢんのうつ後より人々とつけてこゝに始し皆弘徽殿

出給人のれをうちをしへ人ぐやゝ文うの寒る中侍女乃

もけちぐいつくうもうれ人ぐ也

弘徽殿大后　わさ付弘徽殿又ハ恩殿

朱雀院のれ母あ丶ひる皇太后うを始め丶ひれ上まうゐ

宮帥宮小方　ゑのうえんの寒まうゐ

按大臣家　四の恵どこゝろしる

五の君　ゑのえんまらくしうを

朧月夜尚侍　わさ付朧月

あ丶ひる朱雀院まうゐて、こうげ殿と

こゝ母さうゑ侍りうゐれさ大臣これ人ちるべし

女御　冷泉院れくゐの時の如れ母ぐ所まうゐ

●左大臣　梅がえまし大臣ゑれ上のもと人ちるべし

大蔵卿

修理大夫　此二人女れひとれれちるまはあるず

牧壺女れ　今上ゑ家のれ時うまつり始しがあ丶れ中

文るゑれ始ら女二家ぐうこゝうてまつうう殆

始うやうちにうゐ又梅がえまし麗京殿ところて

一三ゑれ人ゐや

●左大臣 竹河左大臣と号す
女 夕ぎりの御はらからの子宰相の中将なる人の母ときこえし
一時おほいきみの御ひと

●右大臣 今上の御祖父おほしまに大臣なり

鬚黒太政大臣
ここに右大将なりし上に左に遷りて内にて右大臣にて
右大将を辞して新帝の御うしろみとして太政大臣なう
を給ふし竹河よりこしらへかきはなれ

頭中将
源氏の大将ときこえし時内侍のつかさより出給ひし
わかさきみて是はされはこそてまつらし人

凝香殿女御 朱雀院の女御今上の御母ちかうさきのみかどへ参
よしなれの下なりけり

藤中納言 母式部の宰相の女
柏木の十才にて母に別し給ひ竹河の正月に御母の内侍
の許へおはしてうらしくへやがて藤のえんの日まねきにまたころも

次郎君 母おなじ
さの給ひしよりは八ばかりにてかれこそにいふべきころの
の給ひし人なりそのゝち昇進おぼつかなし

右兵衛督 母玉かづらの人
さられ下の女宮の時也やうのゆえ殊に文朱雀院の孫乃
日陵王をまひし人竹河にて左近中将ときこゆ同巻にて右兵衛

給て姫宮参りたまふ

まうのぼりたまひしに人々べし

右大弁　　女おなじ

四二人むづかれ給ふ六条院よりわたしてまうのぼれしに

ぐしてまいり給ふ又東雅院れ宮のこぐれ日おなじこさ尚

日にまいり給ふ行ぶよ太中弁月参よ太大弁

頭中将　　女おなじ

行ぶよ侍従月参よ中将

真木柱上　　女中納言よ月

ちれ下よ宮の若ぎつ宮の小方よりちいさやうを給へ

後紅梅大臣探察大納言とうとうしに時小方よりとすると給

まれのうらいに我をとすると思れおしうう人

女れ　　女むづかの四侍

行ぶの四月よ冷泉院へまいり給ふ父ぎりのれ子宰相中将

蔵人少将とうとうしに時心つうう給人

尚侍　　女女れよおなじ

行ぶよ女のゆづりとうけて四侍よりやで四へまいりあふ

●大臣

六条れ息所　十六まして前坊へまいり給ふ秋好中宮とうめると

十九まてうやまとれ給ふてむすめれ秋宮よりて

行幸よりぐちこおげうのぼりて給ふうを給ふ真木

●大臣——女御　六月給の八宮のれ女

●大臣　ひめ君二人うこをとりてうられ給由をうしひめまこも

宇治宮小方

常陸坊小方　わき付浮舟

たゞをもこそ

宇治家の小方のめいとい中将君どて家まうしひさ小方う

をゐて後乳母の君をうめら後まに書陸ようてゐまあるこをさ

●大臣

入道播磨守　近衛中将ちかけうう辞をて播磨守まなるを

乳母ようてうしおろしうこをもつれ上まに侍をうて

源山まいをめ

明石上　舟中勢親王のむまで

松風まうに海をうるれて大井に住しが乙女まに六条院まつうて冬の

れうこをうさ也

●按察大納云

雲林院律師

源氏の君のれをぢ法文ちどうまを給人ちうう来まこも

桐壺更衣

源氏の君をうこを給て三らをもといつまるるるちぬざうらて

まで仏ち時輦をゆうさう鳥辺野まうつ寸後三位をうる

●按察大納云——紫上母

●按察大納云——五節君

乙女まひめ雲居まうて、やどでさ

ゆうさ、ほうばうのむすめあうち

●大将　東宮まに大将どうう　左近衛中将　ひうちれをけがむこ

●権中納言　右衛門督　源氏中将のうちなり

右衛門佐　源氏中将の弟　母大納言

空蟬君

父中納言なくなりて後、ひとりもけがつまるなり、又ひとりなり、

ふぢつぼ　対ぐしてくらうきさわる系へのがりて、内裏へもけ

とられて、坂尼まゐりて、二条院の東のおんまるすこさ

●右衛門督　母　中将なる人の小方

うせにうてるひとこゑ

●参議宮内卿　明石乳母　母院宣旨

源氏くらひらうて明石へぐし給ふ乳母なりて姫へのかたわ

三位中将

夕顔上　波仕のなぐ美人の女侍ときこえしけうとひて、玉

づをうめうぞ後夕がほのやどりて、源氏よあひなるよ

の院とかやうて、ものれまうせあとし十九

宰相　宰相の君　むづかれ乳母房六条院ますこ給し、

人ぐ乳母一乳人行ぶ薫ニ言うみけ一もし人ゐ

参議藤原惟光　母大武乳母

すーめ八民ア大伯とこ西し女まる津守ニ左京大夫けうち、梅ぐえに宰相

兵衛尉　童ニて貴ぐをゆうされぐうれ乳ニ筑ニ夕霧乃

文ぢうぞ治一れつひちう、梅ぐえる兵衛尉、みざちる母

うげまれーうさ紀ありてまいりーー人

藤典侍（とうないし）
五節の舞姫（まひびめ）也。夕霧（ぎり）におもはれのちに入られ下に内侍佐（すけ）となる

山阿闍梨（やまのあざり）
惟光（これみつ）があにと夕がほにまいる

少将命婦（せうしやうのみやうぶ）
夕がほの巻にあり

三河守妻（みかはのかみのつま）
夕がほに大弐（に）のあまれるやうしはわかさ

前播磨守（さきのはりまのかみ）

源良清（みなもとのよしきよ）
若紫（わかむらさき）に蔵人にてさふらふ也。明石にはけ納言（せうなごん）
ところ〳〵におほくは靫負佐（ゆげいのすけ）乙女（をとめ）に左中弁にて近江守（おうみのかみ）を兼（けん）ず

五節（ごせち）
乙女の巻に内侍（ないし）になりてやがてさふらふし也

左中弁
宇治の宮の北方母かたのおぢといへり

弁尼（べんのあま）
母 柏木（かしはぎ）のめのと
女三宮の侍従のめのとのめいにて大将に昔（むかし）のこと申さる

伊予介（いよのすけ）
をし人さるへくふうへしきくわしびなる
ちゞめは伊予にまかりびちに出てきさやのぼり月巻にみえぬ

紀伊守（きのかみ）
源氏これかうすずべの中川の家（いへ）あつときさやにて河内（かうち）の
守（かみ）になりてみづからはゝさるゝにゆかるあり

蔵人左近将監（くらうどのさこんのしやうげん）
源氏の大将にて斎院（さいゐん）の御禊（ごけい）にまうでて
須磨（すま）にふし一名をたつる人ありし大将次第（すまゐ）のうしにともなひ
こゝろしおりぐよのかずけられたるのがりて靫負（ゆげい）
のきうつまるう松がえにつかるまつかさ

蔵人少将妻（くらうどのせうしやうのつま）
うつせみの妹のまゝむすめ源氏うつせみのもとゆけの夜あひ

なを彰義とむすびてけかうしうちし人

●常陸介

義人式部の丞　母まへのつま

あづまやまにうちれつひそて自文へまいりし人

義人左近将監　母いまかのうち

源氏大将音のゆうちとそうて義人よりて我方れ将監よりて

童　母おかる

母のをとのよりとうて源氏文りをてけかいれし人

源サ納言妻　母まへのつま

讃岐守妻　母おかる

サ将小方　母今ふのうち

●太宰大貳

源氏次ア　母おりまちをろけくうちのぼりてをづれ

うてまうしへ

筑前守　うちれつひそて源ア へまいりし人

五節

源氏あひこ結しへ人うち父ちうて源ア れ巻よ京よのり

ふ又明石巻ふとうれ巻にもをづれのうとうも

●太宰サ貳　タ方のへ人のうれうれおとこ

豊後介

又こうきて後ふむづこれ方ふてのぼり六条院へ入りうと

次郎
三郎
楊名介妻
姉たち

源一付それらの家司よりそもそも

此二人いけらるめきこしけて京へとのぼるも
タゞかの琴まこうの
これもいけらるあるとつさてのぶ〳〵も
まくいあてごとくいのさ姫ぎよごてのぶうぬ
ほんぐ伊ちどいんち

妻君
兵ア太輔
大輔命婦

女房清門の乳母

もゑつむこ志の夏源氏こりさうもこ人